

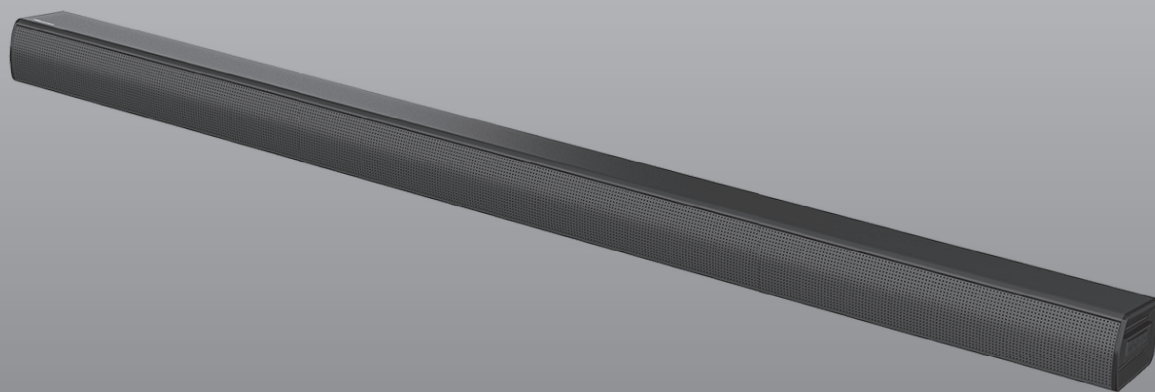
Hisense



2.1 Ch シアターサウンドシステム

HS210

取扱説明書



お買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意（☞ 2～7 ページ）」は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになった後は、保証書とともにいつでも見ることができる場所に保管してください。

目次

安全上のご注意.....	1	設置のしかた.....	11
警告（電源コード・プラグ）.....	2	設置の方法.....	11
警告（使用）.....	3	テレビとの接続のしかた.....	12
警告（電池）.....	3	HDMI 端子で接続する.....	12
警告（移動、設置）.....	4	光デジタル端子で接続する.....	12
注意.....	5	同軸デジタル端子で接続する.....	13
注意（電池）.....	5	LINE IN 端子で接続する.....	13
注意（廃棄）.....	6	電源コードの接続 / サブウーファースの接続.....	13
ライセンスおよび商標などについて.....	6	基本の使いかた.....	14
使用上のご注意・お手入れについて.....	7	Bluetooth® 機能を使う.....	15
内容物を確認する.....	8	USB メモリーを使う.....	15
各部のなまえ.....	9	故障かな?! と思ったら.....	16
本体接続部.....	9	主な仕様.....	17
リモコン.....	9	保証とアフターサービス.....	18
リモコンについて.....	10		

安全上のご注意

ご使用前に本書、特に「安全上のご注意」をよくお読みいただき、正しく安全に使用してください。

この取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。これらは、あなたや他の人々への危害や、財産の損害を未然に防ぐための表示です。危害や損害の内容や程度に応じて、表示を以下のように区分しています。内容をよく理解していただいてから本文をお読みいただき、記載事項をお守りください。



警告

この内容をお守りいただかないと、人が死亡や大けがに至るような、重大な事故が起こる可能性があります。



注意

この内容をお守りいただかないと、人のけがや財産の損害をまねくことがあります。

図記号の意味 (例)



気をつけていただきたいという記号です。



してはいけないという記号です。



していただきたいという記号です。

安全上のご注意 (つづき)

警告 (電源コード・プラグ)

コンセントや配線機器の定格を超える 使いかたや、交流 100V (50/60Hz) 以外では使用しない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱により火災の原因となります。海外などで異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけたり、加工したり、 ねじったり、引っ張ったり、無理に曲 げたり、加熱したりしない

電源コードが傷んだら (芯線の露出、断線) 交換をご依頼ください。そのまま使用すると、コードが破損して、火災・感電の原因となります。

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードに傷が付き、火災や感電の原因になることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

ゆるいコンセントに接続しない

電源プラグは、根本までしっかりと差し込んでください。根本まで差し込んでみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因になることがあります。電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

電源プラグをつなぐのは、他機器との 接続が終わってから

コンセントに差したまま他機器と接続すると、感電の原因になることがあります。他機器との接続が終わった後に、電源コードを本機につないでから電源プラグを壁のコンセントに差し込んでください。

電源プラグは定期的にお手入れを

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因になります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを取ってください。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れすると、感電の原因になることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因になることがあります。

電源コードに重いものを載せたり、 本機の下敷きにしたりしない

火災・感電の原因となります。

他の電源コードを本製品に使用したり、付 属の電源コードを他の商品に使用しない

火災・感電・ショートの原因となります。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れ ない

感電の原因となります。

運搬 / 移動するときは接続されている 線などをすべて外す

本機を運ぶときは、本機に接続されている電源プラグやケーブルなどをすべてはずしてください。電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因になることがあります。

安全上のご注意 (つづき)

警告 (使用)

分解や改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検や修理はお買い上げ店にご依頼ください。

煙やにおい、音などの異常が発生したら、本機の電源を切り、電源プラグを抜く

異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。修理をお買い上げ店に依頼してください。お客様自身による修理は絶対におやめください。

本機を落としたり、強い衝撃を与えない

火災・感電・故障の原因になります。

本機の開口部分に手や指を入れない

けがの原因になります。

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

内部に水や異物が入ると火災の原因になります。万一、水や異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、修理をお買い上げ店に依頼してください。

長時間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く

火災・ショートの原因になります。

大きな音量で長時間使用しない

聴覚障害の原因になります。

本機の開口部分に金属片や紙片などの異物を入れない

火災・感電・故障の原因になります。

警告 (電池)

電池を火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱、充電しない

電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池はプラスとマイナスの向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

間違えると電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を使い切ったときや、長時間使わないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない。新しい電池と古い電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

警告（移動、設置）

使用・設置場所について

電源コンセントに容易に手が届く場所に置き、何か異常が起こったときは、すぐに電源プラグを抜くようにしてください。

壁に取り付ける場合は、必ず専門の業者に取付けてもらう

専門業者以外の人が取付けたり、取付けが不適切だと、本機が落下するなどして、打撲や骨折など大げがの原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、本機が落ちたり倒れたりしてけがの原因になります。平らで十分に強度があり、落下しない所に置いてください。

水のある場所に置かない

水が入ったり、ぬれたり、風呂場で使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際での使用は特にご注意ください。

本機を医療機器の近くに設置しない

医療機器の誤動作の原因になることがあります。

湿気やほこり、油煙、湿気の多い場所や、虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、ホットカーペットの上や熱器具の近くに置かない

火災や感電の原因となることがあります。銭湯や温泉の脱衣場などに設置すると、温泉に含まれる硫黄などにより、硫化したり、高い湿度で本機が故障したりすることがあります。

屋外や窓際で使用しない

雨水などにさらされ、火災や感電の原因となることがあります。また、直射日光を受けると、本機が熱を持ち、故障することがあります。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることがあります。

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から 15cm 以内で使用しない

本機の発する電波により、ペースメーカーや除細動器の動作に影響をおよぼす原因になります。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

- ・逆さまにしない。
- ・棚や押入の中に置かない。
- ・布をかけない。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 注意

❗ お手入れのときや、旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグを抜く

お手入れのときや、本機を長時間使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグを抜いてください。本機はスタンバイにしているだけでは、完全に電源からは切り離されておらず、常に微弱な電流が流れています。完全に電源から切り離すためには電源プラグをコンセントから抜く必要があります。コンセントは製品の設置場所に一番近く、抜き差しがしやすい場所を選んでください。

⊘ 電源コードを熱器具に近づけない

電源コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。

❗ 人が通行するような場所に置かない・コード類は正しく配置する

電源コードや信号ケーブルは、足に引っかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかけたりするようなおそれのある場所を避け、充分注意して接続・配置してください。

❗ 電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全だと発熱したり、ほこりが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

⊘ たこ足配線をしない

火災・感電の原因となることがあります。

⊘ 重いものを置いたり、上に乗ったりしない

倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。特にお子様やペットにはご注意ください。

⊘ 風通しの悪いところに入れない・密閉した箱に入れない・じゅうたんや布団の上に置かない・布などをかけない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠ 注意（電池）

❗ 指定された種類の電池を使用する

間違えると電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

⊘ 電池は幼児の手の届くところに置かない

電池は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師と相談してください。

⊘ 電池の液がもれたときは素手でさわらない

- ・電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- ・皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に傷害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。

⚠ 廃棄するときは

廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

注意（廃棄）

一般の廃棄物と一緒にしない

一般の廃棄物と一緒にしないでください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。

地域・自治体の条例または規則に従って廃棄する

● ライセンスおよび商標などについて



DTSの特許については、<http://patents.dts.com>をご参照ください。DTS Licensing Limitedからの実施権に基づき製造されています。

DTS、シンボル、&DTS および DTSとシンボルの組み合わせはDTS社の登録商標です。また、DTS 2.0 Channelは Inc.@DTS, Inc の商標です。すべての権利を保有します。



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標です。当社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者に帰属します。



Dolby laboratoriesからの実施権に基づき製造されています。DolbyおよびダブルD記号は、Dolby laboratoriesの登録商標です。

FCC情報（米国のお客様向け）

警告：

製造元が明示的に承認していない変更や改造、本機にそぐわない変更や改造を行うと、ユーザーの使用権が失効します。

● 使用上のご注意・お手入れについて

■本製品使用上の注意事項

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、裏表紙の弊社営業所にお問い合わせいただき、混信回避のための処理など（たとえばパーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波障害が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、裏表紙の弊社営業所までお問い合わせください。

■機器認定について

本製品は、電波法に基づく技術基準適合証明を受けています。本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。使用上の注意に反した機器の利用に起因して電波法に抵触する問題が発生した場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

- 本機内蔵の無線装置を分解 / 改造すること
- 本機内蔵の無線装置に貼られている証明ラベルを剥がすこと

(Bluetooth)

2.4 FH 1

「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「FH」：変調方式は周波数ホッピング（FH-SS方式）

「1」：想定干渉距離が10 m以内

■■■■■：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

■使用制限

- 日本国内でのみ使用できます。

■通信可能距離

見通し距離約 10 m 以内で通信してください。間に障害物や近くに干渉機器がある場合、または周囲の環境により、通信可能距離は短くなります。

■他の機器からの影響

- 磁場・静電気・電波障害の発生する場所では通信しないでください。また以下の機器の付近で通信すると、通信が途切れたり、速度が遅くなる場合があります。
 - ・電子レンジ
 - ・デジタルコードレス電話機
 - ・その他 2.4 GHz 帯の電波を使用する機器の近く（ワイヤレスオーディオ機器、ゲーム機など）
 - ・電波が反射しやすい金属物の近くなど

■外装のお手入れについて

- ・乾いた柔らかい布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- ・アルコールやベンジン、シンナーを使用すると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。
- ・布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。

■電磁波妨害に注意してください

- ・本機の近くで携帯電話などの電子機器を使うと、電磁波妨害などにより機器相互間での干渉が起こり、雑音が発生したりすることがあります。

■国外では使用できません

- ・この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では電源電圧が異なりますので使用できません。

This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

■取り扱い上のご注意

- ・不安定なところに置かないでください。また、絶対に落としたりしないでください。故障の原因となります。
- ・殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

■使用環境について

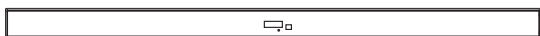
- ・周辺温度は 0 ~ 35℃ の範囲内でご使用ください。正しい使用温度を守らないと、故障の原因となります。

■リモコンの取り扱いについて

- ・落としたり、踏みつけたり、液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
- ・直射日光が当たるところ、暖房器具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

● 内容物を確認する

箱を開けたら、以下の内容物がそろっているか確かめてください。



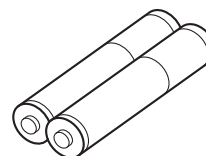
バースピーカー × 1 台



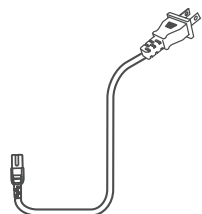
ワイヤレスサブウーファー × 1 台



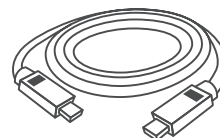
赤外線リモコン × 1 台



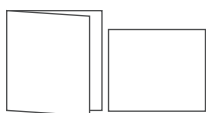
単四形乾電池 × 2 本 (リモコン用)



AC (電源) ケーブル × 1 本
(ワイヤレスサブウーファー用)



HDMI ケーブル × 1 本



取扱説明書 / クイックスタートガイド × 各 1 部

保証書

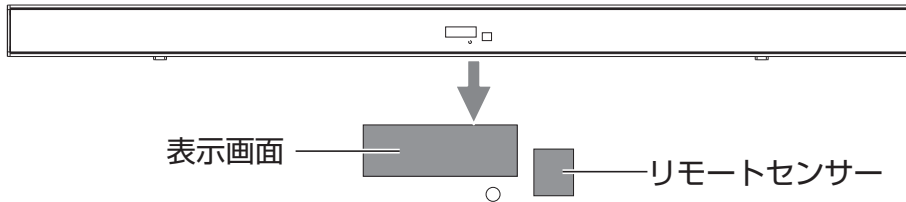
保証書 × 1 部

※図はイメージです。

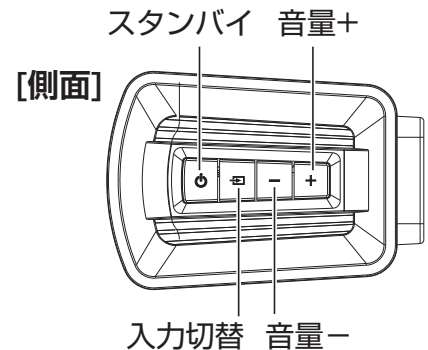
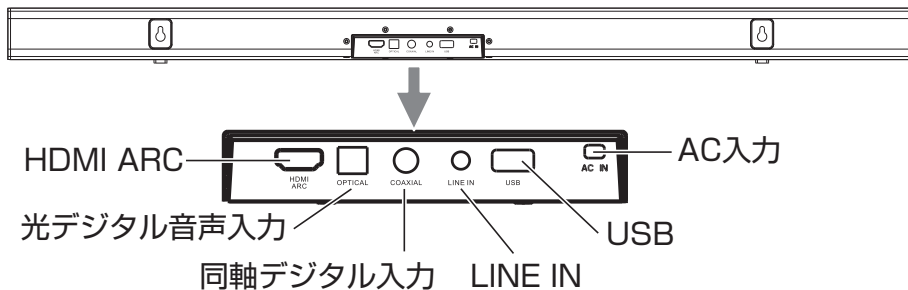
各部のなまえ

本体接続部

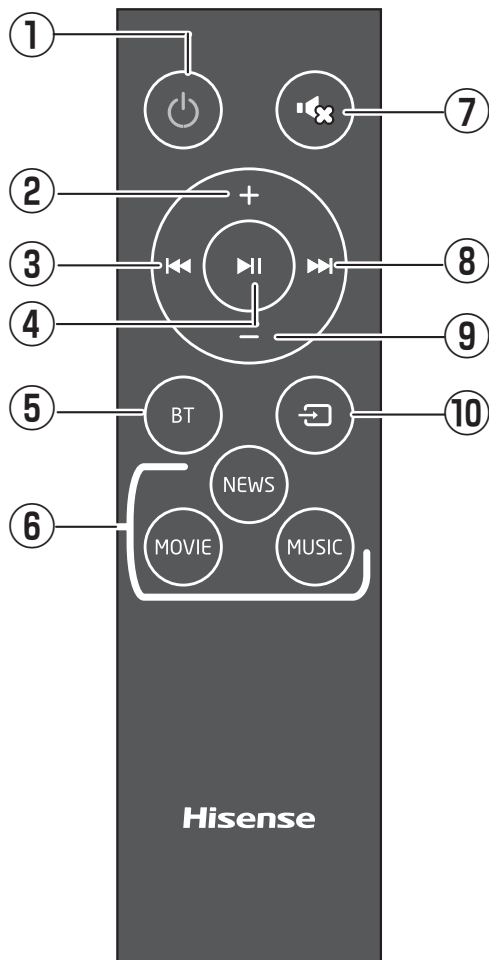
[正面]



[背面]



リモコン



ボタン	バースピーカー表示	動作
① 電源	ON/OFF	本機をオンとスタンバイに切り替えます。
② 音量+	000~45	音量レベルを上げます。
③ 前スキップ (USB モード時)	001	前のトラックにスキップします。
④ 再生 / 一時停止 (Bluetooth® / USB モード時)	PLAY/PAUS	再生中に押すと一時停止します。もう一度押すと再生を再開します。
⑤ Bluetooth® 切替	bt	Bluetooth® モードに切り替えます。
⑥ MOVIE/NEWS / MUSIC 切替	EQ2	MOVIE: 映画モードで再生します。
	EQ3	NEWS: NEWS モードで再生します。
	EQ1	MUSIC: 音楽モードで再生します。
⑦ ミュート	000	押すと消音します。もう一度押すと元の音量に戻ります。
⑧ 後スキップ (USB モード時)	001	次のトラックにスキップします。
⑨ 音量-	000~45	音量レベルを下げます。
⑩ 入力切替	bt / LINE / ARC / OPT / COA / USB	BT / LINE IN 入力 / ARC (HDMI) / 光デジタル入力 / 同軸デジタル入力 / USB 入力で切り替えます。

● リモコンについて

電池の入れ方

- ① 電池カバーを開ける
- ② + 極、- 極の向きを確認し、正しい方向で単四形乾電池 2 本を入れる
- ③ 電池カバーがカチッというまで押して閉める

⚠️ ご注意

電池は誤った使い方をすると液漏れや破裂することがあります。特に以下の点に注意してお使いください。

- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 使えなくなった電池はすぐに取り出す。
- 液漏れした電池は使用しない。

漏れた液に触れると肌が荒れることがあります。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

お知らせ

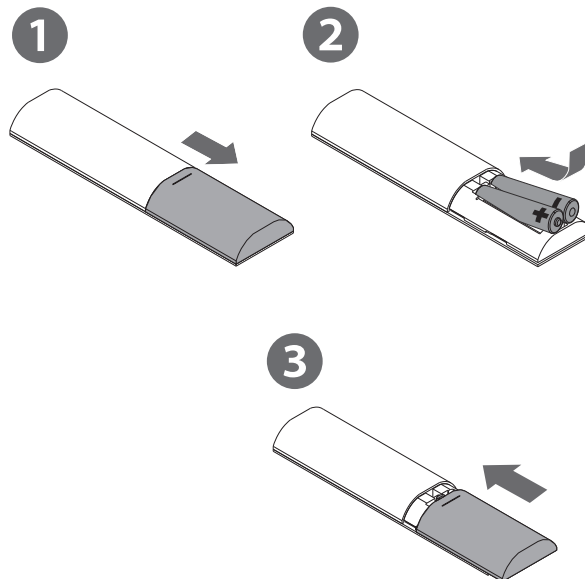
- 付属の電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。
- リモコンを長く使わないときは電池を取り出しておいてください。
- 電池を廃棄するときはお住まいの自治体で定める廃棄方法に従ってください。

操作のしかた

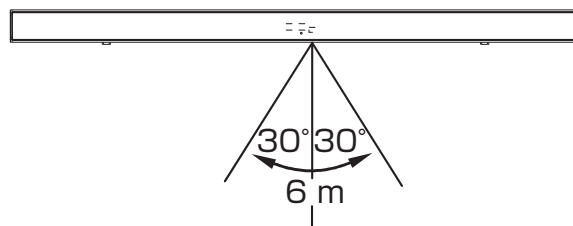
本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

⚠️ ご注意

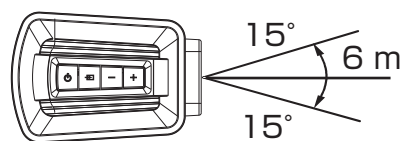
- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり温度の高い所に置いたりしないでください。
- リモコンは直射日光の当たる場所に放置したりしないでください。熱により変形することがあります。
- 赤外線を使用する他の製品の近くで本リモコンを操作する場合や、本製品の近くで他の赤外線を使用するリモコン製品等がある場合、リモコンが正常に動作しないことがあります。また、他の製品が正しく動作しないことがあります。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や強い照明が当たっているとリモコンが動作しにくくなる場合があります。その場合は照明または本体の向きを変えるか、リモコン受光部にリモコンを近づけて操作してください。
- リモコンを操作してもバースピーカーが動作しない場合は、新しい乾電池と交換してください。



(バースピーカー正面)



(バースピーカー側面)

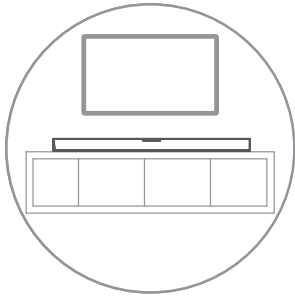


● 設置のしかた

設置の方法

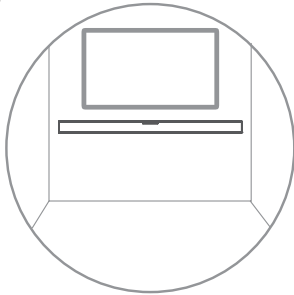
■ ラック等の上に設置する

バースピーカーの平らな面がテレビの前に来るように、水平で安定したラック等の上に設置してください。



■ 壁に取り付ける

バースピーカーを壁に取り付ける場合は、必ずお買い上げの販売店または専門の施工業者に依頼してください。誤った設置により起きた事故について、弊社は一切の責任を負いません。

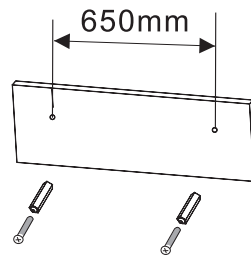


【壁取り付け例】

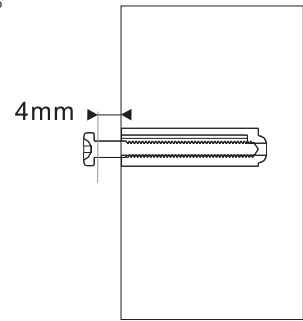
1. 図1のように、壁に2つの穴(Φ5.5~6mm)を650mm(バースピーカーの取付穴の間隔)になるように開けます。バースピーカーを取り付ける壁の種類と厚さに応じて、壁取り付けネジとボードアンカー入手してください。

- ・直径：M5
- ・長さ：32mm以上を推奨。

例えば、コンクリート壁の場合、2本のボードアンカー(市販品)を穴に挿入してから、ネジ(市販品)を穴に挿入して締めます。

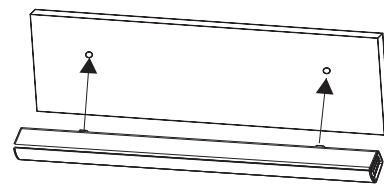


【図1】



【図2】

2. 図2のように、ネジの頭部と壁の間に4mmのスペースを空けてください。
3. 図3のように、組み立てられたバースピーカーを壁固定のネジ上に取り付けます。



【図3】

⚠ 注意

- しっくいやベニヤ板のような弱い材質の壁には設置しないでください。本機が落下するおそれがあります。
- 市販品のネジは、規定サイズで十分な強度があるものをご使用ください。規定サイズ以外のネジを使用すると本機が落下し、けがのおそれがあります。
- ケーブル類は必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、本機が落下し、けがのおそれがあります。
- 本機に上から強い力をかけたりしないでください。本機が落下し、けがのおそれがあります。
- 設置後、本機がしっかりと固定されていることを必ず確認してください。

● テレビとの接続のしかた

HDMI 端子で接続する

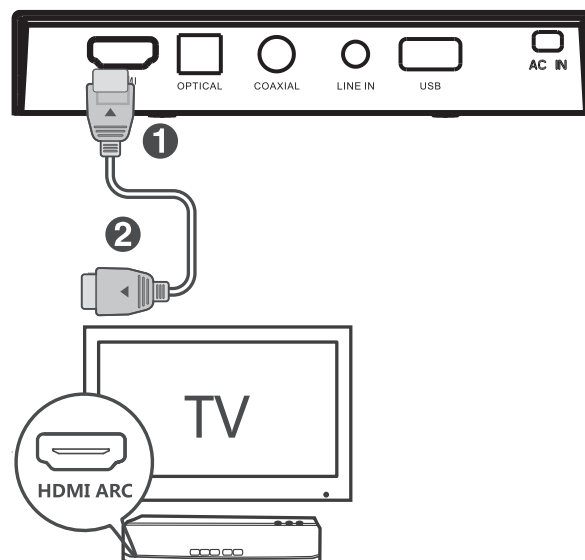
本機の HDMI (ARC) 端子と ARC 対応テレビの HDMI (ARC) 端子を HDMI ケーブル 1 本で接続します。

お知らせ

● ARC (オーディオリターンチャンネル)

ARC 機能により、1 本の HDMI ケーブルで ARC 対応テレビから、シアターサウンドシステムにオーディオを送信できます。ARC 機能を楽しむには、ご使用のテレビが HDMI-CEC と ARC の両方をサポートしている必要があります。正しく設定されると、テレビのリモコンを使用して、シアターサウンドシステム音量出力 (音量 +/- およびミュート) を調整できます。

- ご使用のテレビで HDMI-CEC と ARC をオンに設定する必要があります。
- HDMI-CEC と ARC の設定方法は、テレビによって異なる場合があります。ARC 機能の詳細については、テレビの取扱説明書を参照してください。
- ARC 機能を使用するには、HDMI ケーブル Ver.1.4 以上が必要です



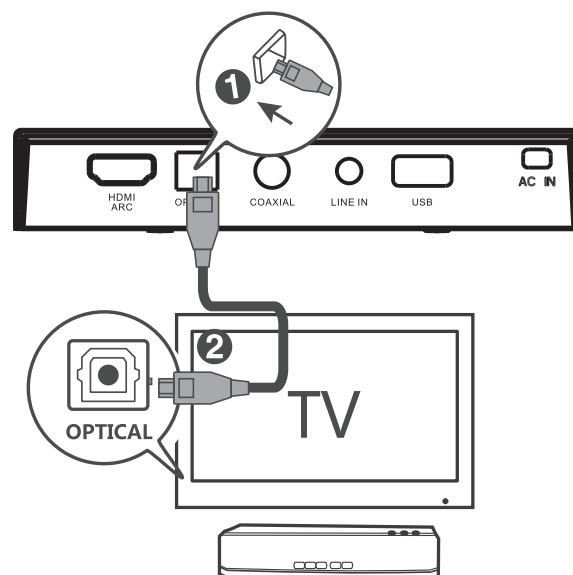
機器の準備をする

光デジタル端子で接続する

光デジタルケーブル (市販品) をテレビの光デジタル出力端子と本機の光デジタル端子に接続します。

お知らせ

- 光デジタル接続または HDMI ARC モードで、本機から音が出ない場合は、入力機器 (テレビ、DVD、ブルーレイプレーヤーなど) で PCM 信号出力を有効にする必要があります。

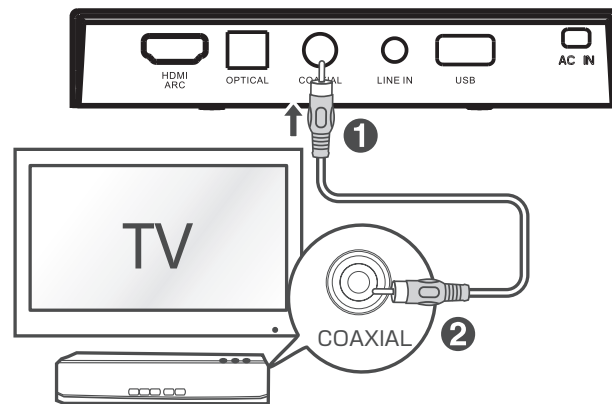


● テレビとの接続のしかた (つづき)

同軸デジタル端子で接続する

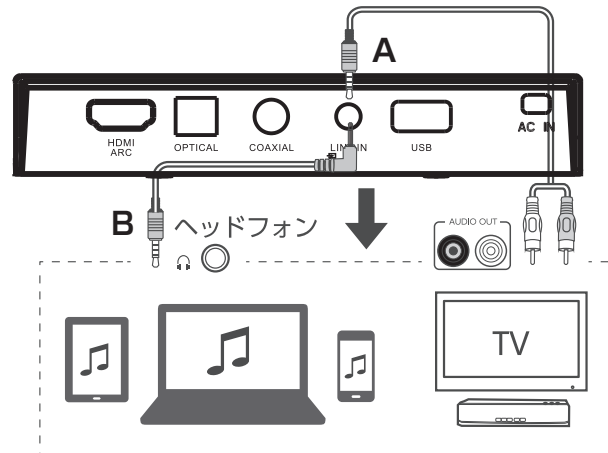
テレビの同軸デジタル出力端子と、本機の同軸デジタル端子を同軸デジタルケーブル（市販品）で接続することができます。

機器の準備をする



LINE IN 端子で接続する

- A. 3.5mm ステレオミニケーブル（市販品）を使用して、テレビの音声出力端子を本機の LINE IN 入力端子に接続します。
- B. 3.5mm ステレオミニケーブル（市販品）を使用して、テレビまたは PC などのヘッドフォン出力端子を本機の LINE IN 入力端子に接続します。



電源コードの接続 / サブウーファースの接続

AC 電源コードをコンセントに差し込みます。



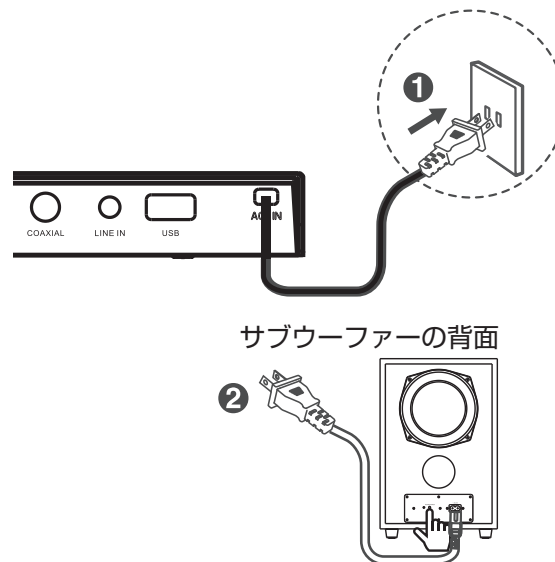
注意

- AC 電源コードを接続する前に、他のすべての接続が完了していることを確認してください。

■ サブウーファースの接続

AC 電源ケーブルがコンセントにしっかりと接続されていることを確認してください。サブウーファーは Bluetooth® を搭載し、バースピーカーからオーディオ信号を受信することができます。青色のインジケータが点滅しているときは、サブウーファーが Bluetooth® 信号を検索中です。青色のインジケータが点灯している場合は、Bluetooth® が接続されています。サブウーファーがバースピーカーと自動的に接続できない場合は、サブウーファーの背面パネルにあるペアボタンを押して再接続してください。

サブウーファーはバースピーカーとの接続を記憶しますので、サブウーファーの電源を切ってから、次に電源を入れると自動的に接続されます。




サブウーファースの背面

● 基本の使いかた

スタンバイ / オン


初めて本機をコンセントに接続すると、本機がスタンバイモードになります。電源インジケータが赤く点灯します。

- リモコンの  ボタンを押して 本体の電源オンと電源オフを切り替える

お知らせ

- 本機の電源を完全に切るには、電源プラグをコンセントから外します。
- ARC 機能を搭載したテレビまたは外部機器が接続されている場合、テレビまたは外部機器の電源が入ると、本機が自動的にオンになります。
- 15 分以上経っても本機に入力信号がない場合は、自動的にスタンバイモードに切り替わります。

入力を切り替える

- 本体またはリモコンの  ボタンを押して、希望する入力を選択する

音量を調整する


- 本体またはリモコンにある「+」 / 「-」 ボタンを押して音量を調整する

サウンドモードを選択する

- 再生中に、リモコンの **NEWS** ボタン、**MOVIE** ボタン、または **MUSIC** ボタンを押すと、サウンドモードを選択できます。
 - ・ **MOVIE** : 映画鑑賞におすすめです。
 - ・ **MUSIC** : 音楽鑑賞におすすめです。
 - ・ **NEWS** : ニュースを聴く場合におすすめです。

LINE IN 入力 / 光デジタル / 同軸デジタル / HDMI ARC の操作

本機がテレビまたはオーディオ機器に接続されていることを確認してください。

- 1 本機またはリモコンの  ボタンを押して、希望する入力を選択する
- 2 「+」 / 「-」 ボタンを押して、お好みの音量に調整する

お知らせ

- オーディオ機器を直接操作して、再生機能を使用することができます。
- 光デジタル、同軸デジタルまたは HDMI ARC モードで、本機からの音声がでない場合は、入力機器（テレビ、DVD、ブルーレイプレーヤーなど）で PCM 信号出力を有効にする必要があります。

本機を使用する

Bluetooth® 機能を使う

Bluetooth® 機器をペアリングする

Bluetooth® 機器が A2DP (アドバンストオーディオディストリビューションプロファイル) をサポートしている場合は、シアターサウンドシステムで Bluetooth® 機器に保存されている音楽を聴くことができます。



初めて Bluetooth® 機器を本機に接続する場合は、ペアリングする必要があります。

- 1 リモコンの BT ボタンを押すか、本体の  ボタンを押して、Bluetooth® モードを選択する
「bt」という文字がディスプレイに表示されて点滅し、本機はペアリングモードに入ります。
- 2 Bluetooth® 機器を起動して、検索モードを選択する
Bluetooth® 機器のペアリングリストに「HS210」と表示されます。
- 3 ペアリングリストで「HS210」を選択する
Bluetooth® 機器が正常に接続され、「bt」が点滅から点灯になります。

Bluetooth® 機器から音楽を聴く

- 1 Bluetooth® 機器を本機とペアリングする
(上記参照)
- 2 接続された Bluetooth® 機器から音楽を再生する

Bluetooth® 機器が AVRCP (オーディオビデオリモコンプロファイル) をサポートしている場合、付属のリモコンを使用して再生をコントロールできます。

- ・再生を一時停止 / 再開するには、リモコンの  ボタンを押します。
- ・前のトラックまたは次のトラックにスキップするには、リモコンの  ボタンを押します。

Bluetooth® 機能をオフにするには




- 1 本機の他の入力に切り替える
- 2 接続している Bluetooth® 機器の Bluetooth® 機能を無効にする
- 3 リモコンの  ボタンを長押しする

お知らせ

- 必要に応じてパスワードに「0000」を入力してください。
- Bluetooth® 機器が 2 分以内に本機とペアリングしない場合、本機は以前接続したネットワークに自動的に接続します。
- Bluetooth® 機器が通信範囲を超えて移動した場合、通信は切断されます。再接続したい場合は、通信範囲内に置きます。
- Bluetooth® 機器との接続が失われた場合は、上記の手順に従って Bluetooth® 機器と本機を再度ペアリングしてください。

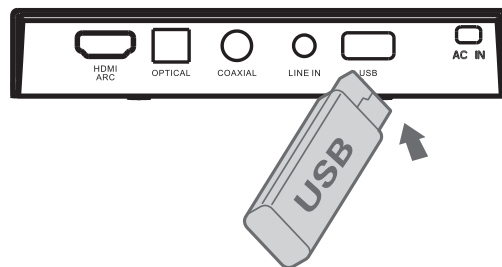
本機を使用する

USB メモリーを使う

- 1 USB メモリーを差し込む
- 2 リモコンの USB ボタンを押すか、本体の  ボタンを押して、USB モードを選択する
再生が自動的に始まります。始まらない場合は、リモコンの  ボタンを押してください。
 - ・前のトラックまたは次のトラックにスキップするには、リモコンの  ボタンを押します。




お知らせ

- USB メモリーは FAT32 フォーマットのみサポートしています。



● 故障かな？！と思ったら

ご使用中に異常が生じたときは、つぎの点をお調べください。それでも正常に戻らないときは、ただちに電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店または弊社サポートセンターにご連絡ください。

こんなとき	お調べいただくこと／なおしかた
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none">● AC電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。● リモコンまたはバースピーカーの  ボタンを押して、シアターサウンドシステムをオンにしてください。
音が出ない	<ul style="list-style-type: none">● 音量を上げてみてください。リモコンまたはバースピーカーの右側にある「+」ボタンを押してみてください。● リモコンの  ボタンを押して、シアターサウンドシステムが消音になっていないか確認してください。●  ボタンを押して、別の入力を選択してみてください。● デジタル音声出力設定「オート」で音が出ない場合：<ul style="list-style-type: none">・ TV 出力が PCM に設定されているか確認してください。PCM に設定されていない場合は、PCM に設定してください。● お使いのテレビが可変音声出力に設定されている可能性があります。音声出力設定が VARIABLE ではなく FIXED または STANDARD に設定されていることを確認してください。詳細については、テレビの取扱説明書を参照してください。● Bluetooth® を使用している場合は、入力機器の音量を調整して、ミュートになっていないことを確認してください。
リモコンが動作しない	<ul style="list-style-type: none">● 再生ボタンを押す前に、まず正しい入力を選択してください。● リモコンと本機の距離を短くします。● 電池は2本とも「+」、「-」の極性表示通りに正しく挿入してください。● 電池を交換してください。● リモコンを本体前面のセンサーに向けてください。
ブザー音が聞こえる	<ul style="list-style-type: none">● すべてのケーブルがしっかりと接続されていることを確認してください。● 別の入力機器（テレビ、ブルーレイレコーダーなど）を接続して、ブザー音が解消されるかどうか確認してください。解消される場合は、元の機器に問題がある可能性があります。
Bluetooth® 機器で本機の Bluetooth® 名が見つからない	<ul style="list-style-type: none">● Bluetooth® 機能が Bluetooth® 機器で有効になっていることを確認してください。● 本機と Bluetooth® 機器を再ペアリングしてみてください。

● 主な仕様

この製品は日本国内専用です。外国では電源電圧が異なるため使用できません。

品名		シアターサウンドシステム	
型番	HS210		
スピーカーレイアウト	スピーカー構造	2.1ch	
	スピーカー構成	バースピーカー	1
		サブウーファー	1
スピーカーユニット (バー)	フルレンジ	スピーカーユニット数	4
		エンクロージャータイプ	バスレフ方式
		ユニットサイズ	フルレンジ：42 mm × 157 mm × 2 個 ツイーター：38.1 mm × 2 個
		振動板素材	紙
スピーカーユニット (サブウーファー)	サブウーファータイプ	ワイヤレス	
	エンクロージャータイプ	バスレフ方式	
	ユニットサイズ	165.1 mm	
	振動板素材	紙	
	インピーダンス (ohms)	4	
スピーカーグリル	スピーカーグリル (バースピーカー)	グリルタイプ	固定
		グリル素材	パンチングメタル
	スピーカーグリル (サブウーファー)	グリルタイプ	-
		グリル素材	-
入出力	HDMI	入力端子数 / 出力端子数	0/1 (ARC)
		HDMI 連動	対応
		HDMI CEC 連動	対応
		4K Ultra HD パススルー	-
		HDR 伝送	-
	光デジタル	対応	
	USB	対応	
	Bluetooth®	ver.4.1/A2DP, AVRCP	
	同軸デジタル	対応	
	AUX	対応	
再生フォーマット	HDMI ARC	Dolby Digital/LPCM 2ch/ LPCM fs : 48KHz/24bit	
	HDMI 1/HDMI 2	-	
	光デジタル入力	Dolby Digital/LPCM 2ch/ LPCM fs : 48KHz/24bit	
	同軸デジタル	Dolby Digital/LPCM 2ch/ LPCM fs : 48KHz/24bit	
	USB	MP3/WMA	
	Bluetooth®	SBC	
実力最大出力 (JEITA)	実用最大出力合計値 (非同時駆動 / JEITA)	100 W	
	フロント	20 W+20 W	
	サブウーファー	60 W	
サウンド機能	サウンドモード	Movie/News/Music	
	消音	対応	
	サラウンド ON/OFF	-	
	BASS 調整	-	
電源	電源	AC100 V	
	電源周波数	50/60 Hz	
消費電力	消費電力	バー：20W/ サブウーファー：25 W	
	待機電力	バー：0.5W/ サブウーファー：0.5 W	
付属品	リモコン / 単 4 形乾電池 / AC (電源) ケーブル / 取扱説明書 / クイックスタートガイド / HDMI ケーブル		
寸法 (幅×高さ×奥行き) (mm)	バースピーカー	980 × 55 × 75	
	サブウーファー	210 × 325 × 248	
質量 (kg)	バースピーカー	1.9	
	サブウーファー	3.9	

※仕様の一部を予告無く変更することがありますのでご了承ください。

● 保証とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではご利用いただけません。

This theater sound system is designed only for use in Japan and cannot be used in any other countries.

保証書について

本機には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、販売店よりお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。

本体の保証期間は、お買い上げの日から1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな?と思ったら」をご参照いただき、故障かどうかお調べください。

それでも具合が悪いときは

弊社サポートセンターへお問い合わせください。

● 電話によるお問い合わせ

受付時間: 月曜～金曜 9:00～18:00
(祝祭日、年末年始、夏季休業期間を除く)

フリーダイヤル: **0120-835-111**

● FAX によるお問い合わせ

FAX 番号: **0570-06-1117** (有料)

※ お客様のご連絡先、型番、購入年月日、お買い上げ店、故障状況を詳しく記載してください。

● メールによるお問い合わせ

電子メールでのお問い合わせは <https://www.hisense.co.jp/contact/> のお問い合わせのページで受け付けています。お客様のご連絡先、型番、ご購入年月日、お買い上げ店、故障状況を詳しく記載してください。

※ サポート受付に関しては変更させていただく場合がございます。

弊社ホームページでサポート時間などをご確認の上、ご利用されるようお願いいたします。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

本機の不具合・修理など、何らかの原因で、本機のメモリーに保存されたデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復は致しません。あらかじめご了承ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

補修用性能部品の保有期間 8年

この商品の補修用性能部品は、製造元が製造打ち切り後8年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

Hisense[®] ハイセンス

ハイセンスジャパン株式会社

〒212-0058 神奈川県川崎市幸区鹿島田1丁目1番2号

<http://www.hisense.co.jp>

本書に記載されている内容は、予告なく変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

本書の内容を無断で転載、コピーすることは禁止されております。

© Hisense Japan Corporation